



日本聖公会
大阪教区教務局
〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
発行責任者
教務局長 司祭 原田光雄

〈HP〉 <http://www.nskk.org/osaka/index.htm> 〈e-mail〉 office.osaka@nsk.org

第433号 2013年10月6日発行

なぜ、この道を歩いているのだろうか、と時々考える。子どもの頃、自分が往くことになるとは微塵も考えなかつた道である。もし人生の道が、自分の意志だけで選べるものであるならば、私はきっとこの道を選ぶことはなかつたであらう。



なぜ、この道を

執事 ヤコブ 義平 雅夫

た一人の男が、人生の途上で己の罪業に恐れをなして出家し、犯した罪はもはや贖うことはできないが、せめて自分が奪った命と同じ数の命を救ってから死のうと心に決めて、毎年多くの人が事故で命を落とす山深い溪谷の断崖に、ただ独り槌と鑿だけで隧道を掘り続

行かなければ苦しい何かがある、という意味においては男と共通している部分もあるのかもしれないと思ひ、上手いこと言ってくださつたと感謝した次第である。

振り返ってみれば、私の召命感のもっとも深いところには、喪失の悲しみが存

教会に行けば、この喪失感が埋まるわけではない。悲しみが忘れられるわけでもない。けれども教会生活には、この喪失感を背負つて歩いていく道が、必ずどこか大切な場所へと繋がっていると思わせてくれるものがある。

つい先日、ある方から「先生は、なんで教会に行くんですか？」と尋ねられた。私は、「本当は行きたくないけれども、行かないと苦しいからです」と答えた。その人は笑って「まるで菊池寛の『恩讐の彼方に』みたいですね」と言った。それは、人を幾人も殺めて金品を奪って生きてき

けるという話である。事情を知らぬ人はその男の自己犠牲的で立派な善行を誉めそやしたが、本人にとってそれは、どこにも届くことのない懺悔でしかなく、ただそうするよりほかに生きようがなかつたのである。

自分がこの男ほどに殊勝な人間とは思わないが、教会に行きたいというよりは、

在しているような気がする。そしてそれは、二度と取り戻せないもの、もはや回復させられないもの、決して帰って来ないもの——そういった「贖うことのできないもの」への感覚であるといつてもいいかもしれない。この喪失感こそが、私の魂を神に向けて歩き始めさせてくれた。

社会には、病める人、苦しんでいる人を支援するためのいろんな組織や施設が存在する。その存在意義、必要性の大きさについては論を俟たない。その中において、教会の大切な役割は、それでもなお取り戻せないもの、決して贖うことのできないものがあるということとを忘れないことではないか。私にとって教会生活とは、悲しみを忘れることではなく、捨て去ることでもなく、大切に心に抱いて、神とともに生きていく道なのである。

(よしひら まさお・東豊中
聖ミカエル教会牧師補・聖
ミカエル保育園長)



大阪教区 90周年を迎えて ④

教区成立九〇周年の記

司祭 サムエル 坪井 克己

1923 (大正12) 年4月に東京で開催された日本聖公会総会で、東京と大阪の2地方部に教区組織の成立を可決しました。それから90年の歴史が経ちます。

自給教区を成立させるためには、当時の法規の規定では、自給6教会以上が、教区設置を申請し総会で認められた場合、新設の教区は、日本人監督(今日の主教)を選挙し、教区自体の運営を計画し、法規を定め、牧会伝道の諸経費も教区自身で賄うことになっていました。このような条件の下に、東京、大阪の2教区は、成立しました。そして日本聖公会は、2教区8地方部から成り立つことになりましたが、此の邦人主教の教区成立をここにみる事が出来ました。その後、大東亜戦争という予期せぬ事態が生じたた

め、ミッション派遣の宣教師はすべて帰国しました。各地方は、やむをえず、次から次へと日本人監督をたてました。そのため日本聖公会全体が、教区を設置した形になつたわけです。正常な発展を遂げての自給でなく、急激な変化による飛躍であるため、教会運営と牧会伝道の面に、無理が起きました。1923 (大正12) 年4月以来、大阪教区は、名出保太郎、柳原貞次郎、小池俊男、木川田一郎、高野晃一、宇野 徹、大西修主教等が90年の大阪教区を掌握してこられたわけです。

小池俊男主教の時に、1963 (昭和38) 年教区成立40周年記念礼拝で、(1) 信徒倍増、宣教活動の強化、(2) 聖職献身者の育成、(3) 教会財政の確立、(4) 5教会の増設の目標が掲げられ、そ

の目標に向かつて前進しました。その結果、前後して石橋聖トマス、庄内キリスト、恵我之荘聖マタイ、高槻聖マリヤ、守口復活、東豊中聖ミカエル、聖ルシヤ等が設立しました。残念ながら、天下茶屋の聖ヤコブ教会は消滅しましたが、そこで培われた信仰の芽は、諸教会で育ち働き成長しています。今桃山学院中・高等学校チャプレン・聖アンデレ教会の副牧師上田憲明司祭は、聖ヤコブ教会の出身であります。

1962 (昭和37) 年5月1、4日にプール学院で、日本聖公会第27総会が行われました。その時、私は補助書記として、総会に参加し、討論の場を見学しいたしました。一つの議題は、教役者に定年をもうけるかどうかでありました。議事録を繕いてな

いので、私の記憶の一端ですが、*神に召し出された聖職は人的な力によって退職を規定しても良いのか?*聖職に定年を設ける人間の傲慢さを考えるべきだ。*聖職も人間である以上、肉体的な限界を考えるべきだ。等々。長時間2人の信徒(共に大学の教授)の討論になって、最終的には、70歳定年が採決されました。当時社会では、55歳定年が当然の頃ですから、普通の方より15年、長く働かねばならぬいんだと。まだまだ若い私に

とっては、遙か先のことだと考えていた私が、定年退職。司祭に叙任されて52年。大阪教区の諸教会に、関わらせていただいています。若い聖職は、聖書の学びは当然のことですが、牧会訓練と祈祷書に記載されている書式の指導と取り扱い、特に結婚式、葬儀全般について、先輩聖職に訪ねて学んで欲しいと思います。(つばい) かつみ・退職司祭 大阪聖三一教会、庄内キリスト教会、高槻聖マリヤ教会(協力牧師)

公 示

日本聖公会大阪教区第110(定期)教区会を、下記のように招集します。

教主降生 2013年9月17日
日本聖公会大阪教区
教区会議長 主教 サムエル 大西 修

記

- 会期 2013年11月23日(土/休) 午前9時(開会聖餐式)から午後5時まで
- 議場 日本聖公会大阪教区主教座聖堂・会館(川口基督教会) 大阪市西区川口1丁目3番8号

なお、上記教区会のため、書記および会計に下記の者を指名します。

書 記	司 祭	ペテロ	竹 林	徑 一
	執 事	ヨハネ	古 澤	秀 利
会 計	司 祭	ヨシュア	原 田	光 雄
		ペテロ	米 虫	克 次

聖愛教会で成岡・金山両神学生を囲む集い

ガブリエル 小野田 芳大

猛暑の続く中、幸いにもしのぎやすい日曜日となった8



(右) 成岡宏晃神学生
(左) 金山将司神学生

月25日の午後3時から大阪聖愛教会に於いて、神学生を囲む集い、が教区神学生後援会の主催により開催されました。出掛けやすい日和にも助けられ、会場である礼拝堂が文字どおり満杯になる盛況でした。

フランチェスコ成岡宏晃神学生とペテロ金山将司神学生は実習先から駆けつけ、古澤秀利執事の司会で義平雅夫執事のお祈りから始まりました。両神学生から自己紹介及び近況報告、更に今後の抱負等が表明されました。

まず金山神学生から大阪教区川口基督教会の信徒及び神学生となるまでの経緯、そしてウイリアムス神学館の神学生である今日までの心情及びその変化を詳しく語ってくださいました。

一方、成岡神学生はこの集いに出席するのが2回目、昨年より落ち着いた様子が感じられました。まず開口一番、昨年より痩せていることが報告され、現在学んでいる状況、課題、これからの目標等を披露されました。期せずして、2人とも来年4月には、現状より5kgの減量を達成する、との宣言がありました。和気藹々の内に1部を終了しました。

続いて、奥村貴充執事の司式により全員で夕の礼拝が行われました。大西修主教からは来年も神学生を囲む集いが開かれる予定であるが、再来年は開催の見通しが立っていないので、是非とも新たな神学生が大阪教区に与えられるようにお祈りくださいとのメッセージがありました。その後会館に会場を移し歓談の時を持ちました。両神学生の上に益々神様の豊かなお恵みがあるように祈りつつ、散会しました。出席者131名、席上献金106,855円は大阪教区神学生後援会に献げます。

(おのだ よしひろ・大阪聖アンデレ教会信徒)

夏の収穫

松崎町 だより

ことのほか暑かった今年の夏でしたが、元気で幾つかの会議や研修会に出席できたことを感謝しています。一つは沖繩教区の管理

主任を4月から9月7日の上原榮正新主教誕生まで5ヶ月間、務めさせて

いただいたことです。同じ日本聖公会内の一教区ですから、共通の宣教課題はありますが、現在沖繩が置かれている状況の中で、常置委員会などを通して、沖繩教区独自の平和を実現するための重い宣教課題の一端に触れる機会が与えられ、それをどのように共有出来るかを考えさせられました。

二つ目は8月、京都で開催された2泊3日の第2回日本聖公会女性会議。ちよつぷり厳めしい名の集まりですが、参加者約60人中25人が男性でした。管区・教区・教会において男女が対等なパートナーシップのもとに協働していくことをめざして、学びと熱心な話し合いがなされました。意思決定機関(教会委員会、教区会、教区の諸委員会、日本聖公会総会、管区の諸委員

会など)への女性の参画を更に推進していくことが直近の目標です。そのためには、信徒一人一人の意識直視変革と女性の会合への出席が容易になる環境作りの実現が急務です。また、女性の聖職がもつと生まれるよう祈り求めましょう。

三つ目は聖公会関係学校教職員研修会。キリスト教精神を建学の礎とする諸学校の教職員にキリスト者が非常に少

ない現状、そして少子化が進み、生徒・学生数の減少が学校経営を圧迫している現状を直視し、どのように対処していくかが大きな共通課題として共有されました。いずれも今後の宣教活動を活性化していくための実り多い学びの機会でした。(主教サムエル 大西修)

大阪教区・京都教区合同

教会奉仕者及び聖職への道セミナー

司祭 アンデレ 磯 晴久

8月20日(火)〜22日(木)、宝塚黙想の家にて、「教会奉仕者及び聖職への道セミナー」が開催されました。今回はスタッフと部分参加者も含めて、大阪教区から12人、京都教区から16人の参加者がありました。聖職候補生、神学生、信徒奉仕者にとどまらず、多彩な顔ぶれが揃い、豊かな内容のセミナーとなりました。講師は3人。



1日目は、新宮聖公会の三浦恒久司祭が、「聖職への道」イエスさまに会いたいなあ」と題して、朴訥とした語り口の中に、真剣にイエスとの出会いを求め続けてきた同司祭の心根が伝わってくるひと時でした。結びとして語られた「自分の弱点をひきずりながら、何とかしてイエスに顔と顔を合わせて会える日をあこがれて歩んでいきたい」という同司祭の言葉が今も心に響いています。

2日目は、プール学院理事長・院長である杉山修一司祭をメインの講師にお迎えして、ユーモアあふれる中に、チャレンジングな、そして示唆に富んだお話を伺うことができました。「神が沈黙する世界で、自分が何者であるかを洞察し、与えられた使命が何であるかを黙想する」という主題の下、セッシヨン1「神の不在」について、セッシヨン2「苦難を生きる 先輩の歩いた道、わたしの歩いた

道」、セッシヨン3「あなたへの使命は何か、どの道を歩いていくのか」という3つのセッシヨンで、熱く語りかけてくださいました。多岐に及ぶ内容でしたが、わたしはその中で、杉山司祭が紹介してくださったマザー・テレサのスピーチが心に残っています。「わたしは毎日2つの聖体拝領をしています。朝、パンの形で祭壇から。もう一つは死にゆくおばあさんのからだから」という極めてキリスト教独特のご聖体とか主イエスと言う言葉を用いながら、すべての宗教の人々に、自分たちの宗教の一番いいところを感じさせる内容でした。その日の夜は、中部教区可児聖三一教会信徒で、日系フィリピン人の人々、特に子どもたちに仕える活動について伺いました。地域宣教について、また教会奉仕職の多様なあり方について

考える有意義なひと時となりました。3人の講師の方々は大変お忙しい中、駆けつけてくださいました。本当に感謝です。

3日目参加者は派遣の聖餐式を守り、それぞれの現場に戻って行きました。次年度も召命黙想会(2014年3月19日〜20日、於：京都教区セ

ンター)、そして同セミナー(2014年8月4日〜6日、於：宝塚黙想の家)が開催されます。各教会において、お勧め下さいますようによろしくお願いいたします。一人でも多くの方々の参加を期待しつつ報告とさせていただきます。(いそ はるひさ・聖職養成委員長)

「いっしょに歩こう! Part II」
新たにスタート

司祭 ヨシユア 原田 光雄

一昨年3月の東北太平洋沖地震による東日本大震災は、超弩級の津波を伴い、東京電力福島第一原子力発電所の爆発による放射能汚染を含め、未曾有の災害をもたらした。

現在もなお、その事態収束のめどさえない。初動支援の後、5月、

日本聖公会が始めた「いっしょに歩こう!プロジェクト」は、予定どおり今年5月末で従来の活動を終えた。

大震災への取り組みは今後も相当の期間を要し、このプロジェクトは新しく、相互に支え合う2つの活動を柱として引き継がれる(常議員会決定)。

①「だいに・東北」(東北教区)の活動) ②「原発と放射能に関する特別問題プロジェクト」(日本聖公会の活動)

①は、東北教区が担う働きで、地域の課題に取り組む教会や幼稚園・保育園に寄り添いつつ折り返し、被災地とともに歩もうとするもの。期間(次頁4段目につづく)

特別寄稿

原発問題についてのQ&A

Q&A ②

日本聖公会・原発と放射能に関する特別問題プロジェクト

〔2〕 原発の燃料はどこから来るのか。そこで何が起きているのか

原発を動かす燃料の主原料はウラン鉱であり、その主要な産出国は、カナダ、オーストラリア、カザフスタン等です。日本で使用するウランは、オーストラリア、カナダ、ナミビア、ニジエールから輸入されています。それらの国々における被ばくは深刻です。

ウラン鉱の放射能半減期は、地球の年齢とほぼ同じで45億年です。このウラン鉱が採鉱される地域は、多くの場合、先住民が大自然の恵みを得て、自然と共に住んできた地域です。このウラン鉱を地中から採掘するために、まず先住民がその地域から追放され、その上でその採鉱労働者として使われることが多いのです。彼らには防護服はおろかマスクや手袋すら支給されないのです、多大な被ばくを強いられます。

被ばくは採鉱に関わる人々にとどまるものではありません。大量に掘り出された鉱滓や残土は、見渡す限りの広さで野ざらしにされ、またその汚染水は膨大な量が溜まり続け、あるいは地下水に溶け込んでいきます。

その結果、地域住民は、γ線を被ばくし、汚染された水や食物を通してウランを体内に取り込むことにより、また空気中に飛散したラドンを吸入することによって内部被ばくが起きます。この3種の被ばくは、採掘現場のどこにあっても必然的に起こるものであり、回避することが出来ません。

また採掘されたウラン鉱は、精錬され、「イエローケーキ」というフレーク状にされ、濃縮され、原発の燃料とされますが、この過程においても、大量の廃棄物が産出され、これによる汚染も著しいものがあります。

以上のような諸事実は、採掘・精錬の過程で、被ばくが構造的に起こっていることを示しています。その意味で、採掘現場において弱い立場に置かれている人々の犠牲を強いることなしに、原発は存続し得ないと言えます。

こうした採掘現場では、著しい放射能汚染が広がり、環境汚染は取り返しがつかないものとなっています。その結果、その地域一帯に住む先住民を始め、地域住民の間で、死者が出、肺がん、心臓病、呼吸器疾患、先天性の異常、不妊症、奇形が多発しています。

我々キリスト者は、「最も小さい者」にしたのは、キリストご自身にしたもの（マタイ26・40）と理解します。キリスト者として、弱い立場におかれた人々に被ばくを強い、原発が成り立っている現状を見過ごしにすることが出来るでしょうか。

（前頁よりつづく）

は2年間（その後については期限前に見直される）。福島県新地町で活動を続けてきた「被災地支援センターしんち」の継続と運営や、磯山聖ヨハネ教会（新地町）の再建に向けての活動など、その働きとして7項目が挙げられている。

②は、「原子力発電」に對しすでに表明された日本聖公会の立場を、私たち自身がキリスト者として、信仰的に一層深く掘り下げつつより広く共有し、この社会で確実に実現していく働き。日本聖公会の立場とは、「原子力発電所そのものを直ちに撤廃し、国のエネルギー政策を代替エネ

ルギーの利用技術を開発する方向に転換するように求めます」というもの（第59定期総会決議／声明「原発のない世界を求めて」原子力発電に對する日本聖公会の立場）。
順次、12項目に関するQ&Aを発表し（本紙今号に第1回掲載）、また、福島県内の郡山や福島、いわきなど、比較的被曝線量の高い地域に住む人たちの避難等に関する支援活動を展開する見通し。

小柄な日本聖公会だが、地球規模の新しい事態の中で新たに、み旨を行おうとしている。（詳細は「9月《教務局だより》」（はらた みつお 教務局長）

2013年 連合男子会一日修養会

日時 2013年10月12日(土) 14:00~17:00

場所 大阪聖愛教会

講演者 東京教区主教 アンデレ 大畑喜道 師父

講演内容 教区成立90周年から今後の10年に向けて

これからの10年について考える

「宣教協議会と教区と各教会の対応について 東京教区の実例」

— プログラム —

第一部 14:00 ~ 16:00 講演会

第二部 16:00 ~ 17:00 親睦会 (会費 1,000円)

是非どなたも、女性のかたもご参加下さい。

大阪教区連合男子会

第2回 日本聖公会女性会議

私たちが一人ひとりが宣教の担い手です
～対等なパートナーシップのもと協働していくためには？～

ハンナ 井上恵美子

8月19、21日、京都教区センターに於いて開催されました。各教区から信徒は2、3名、第1回会議への参加の有無に関わりなく皆さん派遣されておられました。今回は①意思決定機関への女性の参画推進について、②女性司祭実現に伴うガイドラインについて、③参加者のためのエンパワメントのプログラム、とい



う過密スケジュールを参加者が7グループに分かれグループ討議とわかちあいを繰り返しました。

初日のジェンダープロジェクトに続くコントでの発題は、初めて「女性会議」なるものに参加することになった私や、同じ思いを持つ人への楽しい解説となりました。2日目の金善姫司祭による、「無くしたドラクメ銀貨を見つけて喜ぶ女」(ルカ8、10)についてのわかちあいは、主題の①

②を討議する上でいつも皆の心に残っていたと思います。

グループ毎に話し合いや分かち合いをしていたので、自分のいたグループでの話しの流れしかわかりませんが、私のグループでは特にガイドラインをめぐる進められました。私

を含め半数が知らなかったのです。

私たちの教会はイケてるのか？

ニコラス 小野 創

多くの問題を話し合った第2回女性会議でしたが、紙面の制限もあるので、重要課題の一つである女性の司祭叙任問題について議論を通して感じたことを述べます。おそらく理解不足の点が多くありますが、今後何を考えるべきかを示す端緒となれば良いと思います。

聖公会の司祭の叙任に対して性差を持ち込むことに神学的な論理があるという主張に私自身は違和感があります。しかしそのような主張をする人たちを、ただ「イケてない人」と呼び、視界から遠ざけておく訳にもいきません。そのような人たちの主張が(そ

1998年第51総会で女性の司祭の叙任が承認されてから16年経つのですが、今も困難や制限を感じながら働いておられるという現状を知りました。そして「女性の」が付いて紹介されています。私たち信徒にとっては男女関係な

く司祭職に任ぜられている大切な存在だと思います。それぞれのグループのこのようにいろいろな思いを閉会礼拝の代祷で献げました。(いのうえ えみこ・高槻聖マリヤ教会信徒)

あるイケてない偏見や差別に満ちた思いを取り除くには、どうすれば良いのでしょうか」と祈りました。自分では時代の変化に十分対応しているつもりでも、ふと「時代遅れ感」満載の意識が頭をもたげてくることがあるのです。多様な人材が存在することのシアワセ感が多くの人の間に広がることを願い、自分はこの世界とどう繋がっていくのかを考えた三日間でした。

速やかに構築することが不可欠であると感じました。

エラそうに書いていますが、イケてない偏見や差別意識の存在を実は自分の心の奥に感じることがあります。そのため、会議の中で設けられた黙想の時間には、「神さま、助けてください。私の心の内に

(ここで述べられた主張は完全に個人の意見であり、私はこの女性会議に大阪教区から派遣されましたが、所属教会や教区の見解を反映したものではありません。)

(おの はじめ・守口復活教会信徒)

2013年
沖縄の旅

命ぬら どう宝たから
〜心で理解する〜

ルデヤ 村上 喜代子



沖縄教区センターでの開会
礼拝、その後のオリエンテー
ションで沖縄教区の方が「沖
縄と本土にある温度差に気づ
いてほしい。そしてそのこと
を自分の言葉で受け止めても
らえたら」と話されたことが
印象に残った。平和祈念公園
にある平和の礎いし（沖縄戦の犠
牲になった方達の名前を刻ん
だ刻銘碑）の前では、犠牲者

第9回
広島平和礼拝

カトリック教会とともに
平和の祈り

司祭 ヨシユア 原田 光雄

戦後68年、8月5日と6日、
神戸教区の第9回広島平和礼
拝が、今回も一部をカトリッ
ク広島司教区と合同で、平和
公園原爆供養塔前とカトリッ
ク広島カテドラル世界平和記
念聖堂、広島復活教会で行な
われた。聖公会の参加者は約
160名。各教区からの参加
に加え、神戸国際、松蔭、プ
ール、平安各学院の学生・生
徒が際立って多かった。

日程は、礼拝や祈り、証言、
分かち合い、平和行進を柱と
し、その合間はゆったりして
いる。黙想しつつ思いを深め
られるのがいい。2日間全体
が、歴史をベースに言葉に
聴く黙想会とも言える。公式
日程が昼食から始まるのも、
またいい。
昼食後、第一の柱は「被爆
証言と平和の主張」。神戸聖
ミカエル教会信徒で80才を超

タリー「標的の村」を鑑賞し
た。復帰40年を経ても、沖縄
が抱える基地問題は深く重
い、と感じることができる内
容だった。
私は教会の分宿は、「首里
聖アンデレ教会」にお世話に
なった。アンデレの皆さんに
歓迎していただき、主日の礼
拝をともし守ることができた。
世界遺産の首里城は、戦う
ための城ではなくて、客をも

てなすための城、という歴史
的な一面を知った。沖縄の家
庭料理を味わう機会もあった。
沖縄のもつおらかなさと温か
さに触れた旅でもあった。こ
の沖縄の旅を通して、多くの
人達との出会いと学びの時が
与えられたことを、沖縄教区
とすべてのスタッフの皆さん
に感謝したい。
（むらかみ きよこ・石橋聖
トマス教会信徒）

える平峯元隆さんが、一大決
心して「わたしの8月6日」
とその思いを明かされた。続
いて「原発被災者とともに」
との主題で木村幸夫司祭が、
小名浜の聖テモテ・
ポランティアセンタ
ーを拠点にした働き
や、特に原発事故に
よる被災地と被災者
の状況を証言された。
その後、分団で分か
ち合い。
夕刻、平和公園慰
霊塔前でカトリック
教会と共に「平和の
祈り」。教話は中村
豊主教。続いて、カ
トリック世界平和記



写真提供：小林尚明司祭（神戸教区）

念聖堂まで小一時間の「平
和行進」。午後7時、ここで、
植松誠主教と中村豊主教がカ
トリック司教団に加わり「平
和記念ミサ」が献げられ、皆
で参加した。説教は、P・K・
Aタークソン枢機卿（教皇庁
正義と平和評議会議長）。
2日目朝、広島復活教会で
「広島原爆逝去者記念聖餐式」
が、中村主教の司式、植松主
教の説教により献げられた。
歴史の現場で「平和」をテー
マに集うことの意味は、やは
り深い。
（はらた みつお・大阪城南
キリスト教会牧師、聖ガブ
リエル教会牧師）

夏キッズ

「地の塩、世の光として」をテーマに
「輝かせる」をみんなで体験

ヘレナ 斎藤 みち

7月15日(月・祝)に「夏キッズ」では、子ども40人、大人64人が川口基督教会に招かれ、みんなで礼拝を作りま

した。4月に行われた「春キッズ」で、ペンテコステの出来事を分かち合いながら子どもたちが感じた「ことば」を集めて、90周年のための記念賛美を作る準備をしました。そうしてひとつの賛美が出来上がりました。「神さまの風

ののって」です。みんなで賛美をする準備をしました。



美しました。もうすぐ各教会へ配布されます。皆さんで味わってください。

夏キッズのテーマは、「地の塩、世の光として」「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい」(マタイ5章13節以下)。メッセージを担当し

「夏キッズ」の前日川口基督教会で
スタッフが、青年のつどい

ジョイ 寺内 みのり

夏キッズの前日に、その準備をするという目的で青年たちが集まり川口基督教会に一泊しました。正直、夏キッズに向けていろいろと考えてはいたのですが、前日までみんなが集まることはなかったの

で、とても不安でした。でも、本間欽吾さんをはじめとする青年プロジェクトの方々が準備してくださったプログラムに沿ってみんなと共に過ごしていく内に、翌日へ

た3つのチームは、「わかちあう」「塩と光」「輝かせよう」などをテーマに、子どもたちとみ言葉を体感しました。「サーバーチーム」では、小学1年生から高校1年生までの子どもが基本的な所作を体験しながら入堂のための行列準備

「奏楽チーム」は、様々な楽器を用いて礼拝を豊かにするための練習。「大人チーム」は入堂聖歌476番(暗闇行くときには)をトーンチャイムで用意しました。みんなで作った礼拝は素晴らしい献げものとなりました。リーダーである青年たちが輝き、その輝きが子どもたちを輝かせて、子どもたちの輝きを大人たちが感じる事ができたのです。みんなが「輝かせる」ことを体験したわたしたちは、世の光であるイエスさまの愛に触れたのではないのでしょうか。(さいとう みち・石橋聖トマス教会信徒)

の不安はだんだんと楽しみへ変わっていききました。くだらない話をしたり燃え上がって卓球をたたり燃え

で、夏キッズのスタッフとして集まった青年たちは、自然と友達として親しんで関われるようになっていったように思います。

前日に夏キッズのテーマに沿ったスタンツやろうそく作り、礼拝を実際に行い、全力で楽しんだことで、翌日子ども

も私たちを前にしても焦ることはなかったです。どのリーダーも自分たちなりに楽しんで子どもたちと向き合い、子どもたちを導いていたように思います。私自身は、7月14日が来るまでには複雑な思いがありました。いざ迎えた青年のつどいと夏キッズは最高に楽しかったです。夏キッズのプログラムが終了した直後の反省会で、本間さんや斎藤みちさん、斎藤琢さん、古澤秀利先生など、青年たちを導いてくださった方々から嬉しい言葉をいただいたときは少し泣きそうでした。青少年キャン

プを行うことができなくて、自信がなくなっていた青年にはとても励みになったと思います。

このような経験ができることに改めて感謝だなあと感じました。ありがとうございます。

私は今就活中で、来年社会人になります。青年プロジェクトの一員として少しでもこれからの青年たちの支えになれるように努めたいです。(てらうち みのり・芦屋聖マルコ教会信徒、青年プロジェクト青年代表)



プロジェクト青年代表)

第6回 日韓聖公会青年セミナー

「環境・生態系・原発を巡って」に参加して

ヨハネ 永井 啓

おらず、歴史について浅い知識で、とても申

今回の日韓セミナーは、8月12日～16日の4日間。韓国の釜山、慶州、月城、古座を訪問し、原発見学、環境運動、日韓関係の歴史などを学びました。

あまり知ることのなかった韓国を、日韓セミナーを通して、今ではとても身近に感じております。そう感じられた理由は2つあります。まず1

つ目は、言語の壁をあまり感じなかったことです。日韓セミナーに参加していた韓国の青年達は、日本語が達者な人が多かったことが幸いして、簡単な会話には困りませんでした。そのおかげで、韓国の青年達が、日本の歴史についての理解が深く、多くの興味を持っていて、分かります。一方日本側は、韓国語

が話せる人が通訳を除けば殆どおらず、歴史について浅い知識で、とても申す訳ない気持ちでした。日本側も、韓国についてもっと知らなければならぬと強く感じました。しかし、これだけで、国境や言語の壁を超えて意思疎通することは難しいです。しかし、それを可能にさせたのが、2つ目の理由として挙げられる「礼拝」です。毎日行われる早朝礼拝と夜の祈りでは、ハングルの言葉と日本



語を交互に読み、賛美歌もそれぞれの言葉と一緒に歌うというものでした。ハングルの言葉は初めて聞くような発音が多く、難しいもので、それは日本語を知らない向こうの参加者にとっても同じ状況だったと思います。しかし、そこには一体感がありました。育った国、文化、環境が違えど、同じキリスト

を信仰するクリスチャンという点で、何も違いはなかったのです。目には見えないけれど、確かにそこには同じものを感じていました。このことは、当然のように思えるかもしれませんが、礼拝を通して実感を持つてそれに気づかされたことが、とても衝撃的でした。礼拝は、国境、民族をも超える素晴らしいものなのです。(ながい けい・高槻聖マリヤ教会信徒)

ソウル賛歌

観光地でないソウルの旅

過去の歴史と向き合うことの大切さ

聖公会 生野センター 洪智雄

聖公会生野センターで韓国語を学んでいる洪智雄です。30年ぶりにソウルを訪れました。まず驚かされたのはソウルの変化であった。空港や高速道路のインフラ整備がなされるとともに、日本語や中国語などの案内表示が至る所に見られ、ソウルはまさに国

際都市であった。

二泊三日の間に思い存分、ソウルを巡ったのだが、今回の訪問で最も印象深かった場所は、「戦争と女性の人權博物館」であった。開館時間前にもかかわらず、私たちのために特別に開けてくださった。日本語による音声案内ガイド

があり、示唆にとんだ展示内容は、「従軍慰安婦」問題を考える上で是非とも訪れるべき場所であると思った。



「戦争と女性の人權博物館」の前にて 右の人が洪さん

私にとって、この度のソウル訪問は、大きく変化したソウルの姿を見聞するとともに、過去の歴史にきちんと向き合うことの大切さをあらためて感じさせてくれた。最後に、今回の旅は聖公会生野センターで韓国語を学ばばこそ実現したものでした。わがままな私の旅にご同行頂いた聖公会生野センターの友人二人と呉光現(オクヒョク)さんにこの場を借りて、謝意を表したいと思えます。

(ホン ジウン・聖公会生野センター韓国語教室受講生) ※聖公会生野センターでは20年以上にわたって韓国語教室を開いています。1クラスから始めた教室も入門から研究と5クラス30人以上が学ぶ規模になりました。8月に教室の有志で「観光地でないソウル」の旅を実施。感慨深い旅となりました。(聖公会生野センター総理事・呉光現)

教派を越えた「大阪・教会音楽祭2013」

天満教会に200人が参加

大阪を中心とする「カトリック、聖公会、日本基督教団、日本福音ルーテル教団の有志によるエキクメニカルの会」と「大阪キリスト教連合会」は、新しく教派を超えた音楽祭「大阪・教会音楽祭2013」を立ち上げ、9月16日(月)、

天満教会に約200人が集った。この朝、大きな台風18号が過ぎ去り、午後2時の開演には200人が集り、礼拝堂は満員。約2時間半の音楽祭によって、一同は教派を越え、心を込めて主を賛美し、交わりを深めることが出来た。

これまで超教派による

「ペンテコステ・ヴィジル」(聖霊降臨日前夕の礼拝)は7回を数え、教派の固い壁が開き始めているとき、今回の「音楽祭」はエキクメニカルの波をさらに着実に進めるものとなった。

「音楽会」は日本基督教団北千里教会の宮岡真紀子牧師の司会で始まり、同教団都島教会の井上隆晶牧師が開会の挨拶と祈りのあと、各教派の聖歌隊などの参加者は次々に舞台に。

演奏順に「カトリック



台風のため棄権された)「日本聖公会大阪教区」、「天満教会聖歌隊」。

ク阿倍野教会、「カトリック今市聖歌隊」、「カトリック垂水教会フォークミサ・グループは、

休憩のあとの後半では「会衆と共に賛美」として、全員が聖公会の聖歌集388番を、川口基督教会の聖歌隊長・内海由美子さんの指揮、辻彩乃さんのピアノ伴奏で歌い、全員が「主の教会は、ただひとつ」と歌い上げた。この歌はそもそも教会の一致のため、かつてプロテスタントの故・由木康牧師(1985年没)の作詞、カトリックの故・高田三郎氏(2000年没)の作曲で、題名「エキクメニカル」を作り上げたもの。先達の意気込みを思いつつ、心をこめて歌った。

この後は「カトリック布施教会の男性による独唱」と、「カトリック屋形町教会クロマティカ」のあと、「旭朝禱会」のソプラノ独唱、さらに同会の女性の方の「歌とハー

プの独奏」。そして「都島教会聖歌隊」の後、「取り」は「在日大韓基督教会関西地方堺教会」の女性信徒が童謡など3曲を歌われて終った。最後に聖公会聖歌隊が挨拶と祈禱

世界の窓

◎デジタル管区の存在は可能か?

アングリカン・コミュニケーション事務局の報道責任者、ジャン・バター氏の提案した「デジタル宣教管区」構想が『アングリカン・ワールド・マガジン』最新号に掲載された。その構想によれば、インターネットを通してソーシャル・メディアと同じような形で、アングリカン・コミュニケーションが共同体としての関係性を話し合い、共通なものをつかち合うことが可能となるという。

そして、「肉体的にもデジタル世界の中においても、霊に満たされた信仰共同体を持つ祝福に私たちは与っているのだ」と述べている。また、聖公会や多くの教会がインター

を献げられ、全員が文語の「主の祈り(日本基督教団版・1880年)」を唱え、賛美に満ちて家路についた。なお、「音楽祭」は来年も催される。(編集部)

ネットによる福音宣教を行っているが、それらは教会単体の活動にとどまっておらず、教会共同体と殆んどつながっていないという現状を説明している。バター氏は「世界のネット人口は約24億人である。もし、多くの人々がスマートフォン、タブレット端末、パソコンなどで礼拝に参加することができると考えれば、聖公会共同体の教会はさらに国際的かつ統合的に神の福音をインターネットによって届け知らせるべきではないか」と訴えている。

(Anglican Communion News Service: August 23, 2013)
司祭 ヤコブ 松平 功
(まつだいら いさお・桃山学院大学チャプレン)

教区の動き

常置委員会報告

9月10日(第10回定例)

I. 主教報告

及び諸報告

*福田光宏司祭は済生会中津病院に入院加療中、意識が戻らず面会謝絶中の状態にある。

*奥村・千松・古澤3執事は9月3日～5日、管区聖職試験(司祭試験)を終了。なお、9月10日～20日の聖地(イスラエル)研修旅行は、東京教区に於いてシリア情勢等の現状に鑑み延期されると共に、旅行は個人の自由意思により、予定通り実施されることになり、千松執事のみ参加、奥村・古澤両執事は次の機会に委ねることになった。

*9月7日、上原榮正主教被選者の主教按手式・沖繩教区主教就任式が行われた(於、北谷諸魂教会)。大西主教はこの日をもって沖繩教区管理主教の任を解かれた。

*桃山学院大学学長に法学部教授前田徹生氏が選出された。

*邑久光明園研修の旅の申し込みを終了、参加者は33名の予定。

*京都教区との協働・合併検討委員会に於いて、報告のための両教区合同常置委員会を9月25日京都教区で開催、今後の進め方を協議する。

II. 協議事項

*第110(定期)教区会開催について、11月23日、9時より川口基督教教会(主教座聖堂)で行うことを決定。書記に竹林徑一司祭及び古澤秀利執事を選任。
*教区事務所職員採用の件につき討議。

*ウイリアムス神学館創立65周年にあたり、10月7、8日記念礼拝・行事が行われ、英国聖公会マーク・チャップマン司祭が来日される。大阪教区では10月10日(木)、大阪聖パウロ教会で講演会及び会費制のパーティを開催する。

なお、8日の記念礼拝に、大阪教区代表として畑野めぐみ氏が出席する。(以上)

教会・施設の動き

大阪聖ヨハネ教会

○6月からバイブルカフェ(聖書を読み語る会)を、毎週金曜日午前10時30分から開催している。毎回10～12人程、内外から参加者がある。
○11月10日(日)礼拝後、恒例の教会バザーを計画、準備中。

大阪聖三一教会

○8月25日(日)昼食後、教会学校主催の「平和朗読会」を開催しました。今年で6回目になります。小学生は「トトロ」の中からの詩を、中学生・大学生・このは「のメンバーで「はだしのゲン」を抜粋して読み響ぎました。オルガンとクラリネットによる「テゼ」の音楽の演奏と共に、今ある平和の意味を皆で感じたひとときでした。

東豊中聖ミカエル教会

○9月8日(日)午前10時30分から、豊中3教会(東豊中聖ミカエル、石橋聖トマス、

庄内キリスト)合同礼拝を行いました。司式・岩城聰司祭、補式・磯晴久司祭、井上進次司祭、説教・義平雅夫執事。出席者は122人。
高槻聖マリヤ教会

○10月5日(土)教会創立60周年記念礼拝を行いました。
○10月27日(日)子ども祝福式、チャペルコンサート。
川口基督教教会

○10月20日(日)12時30分から「川口バザー&オルガンコンサート」が開催されます。
パイプオルガンコンサートは午後2時から、指定有形文化財の聖堂ツアーもあります。

聖贖主教会

○博愛社カーニバルが10月20日(日)午後10時からあります。婦人会のバザーも一緒に開かれます。博愛社カーニバルは施設構内、婦人会バザーは教会1階集會室です。
大阪聖アンデレ教会

○10月27日(日)12時から教会バザー。午後1時からチャペルコンサート。出演は男声合唱団「M・G・O」

大阪聖愛教会

○大阪聖愛教会にボーイスカウトが創立されて、今年で50

年になります。大阪第87団では11月10日(日)の主日礼拝において50周年を祝い、その後祝賀会を開催します。お覚えください。
桃山学院大学聖教主礼拝堂

○10月25日(金)午後3時からキリスト教講演会が開催されます。講師は、北海道大学名誉教授で宗教学者の土屋博氏です。テーマは「どっこい生きてる(?)」―21世紀日本社会のキリスト教―です。入場無料。
○11月6日(水)午後1時30分から、チャペル・コンサートが開催されます。今回はカントリー・ゴスペルの大御所、森繁昇さんをお招きし楽しい一時をと考えています。無料ですが、定員250人を超えた時点で入場できなくなりま

すので、あらかじめご了承ください。

祝受洗

○大阪聖アンデレ教会
アンデレ 粥川 昌
(5月12日)

○川口基督教教会
アンジェラ 春田きよ子

教区関係教役者
逝去者記念聖餐式

◇ 11月13日 (水) 10:30 ~

於: 主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者 ヤコブ 義平雅夫執事

- 1日 司 祭 ジェームズ・ウイリアムス (1920 英)
- 3日 司 祭 パウロ 山本 早太 (1988)
- 4日 司 祭 ヨハネ 張本 栄 (チャン・ボンヨン 1966)
- 宣教師 コンスタンス・メアリー・リチャードソン (1968 英)
- 5日 司 祭 パウロ 後藤 光敏 (1971)
- 9日 司 祭 ヨハネ 有近 康男 (1991)
- 11日 司 祭 ヨハネ 伴 君保 (1956)
- 12日 宣教師 ドーラ・レイチェル・ハワード (1947 英)
- 17日 宣教師 ガートルード・E・コックス (1906 英)
- 19日 司 祭 ヨハネ 側垣 正巳 (1997)
- 20日 司 祭 ホレイス・ジョージ・ワレン (1950 英)
- 21日 主 教 ホレイス・H・プライス (1941 英)
- 22日 司 祭 ベルナルド 小穴 藤雄 (1971)
- 23日 司 祭 北川 千代吉 (1939)
- 30日 宣教師 アミー・キャロライン・ボサンケット (1950 英)
- ?日 宣教師 アンナ・マリア・タブソン (1940 英)

◇ 12月11日 (水) 10:30 ~

於: 主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者 クリストファー 奥村貴充執事

- 1日 宣教師 エディス・イライザ・ソーブ (1930 英)
- 2日 主 教 チャイニング・モア・ウイリアムス (1910 米)
- 4日 司 祭 テモテ 山本 登 (2009)
- 13日 司 祭 ジョン・キャリー・アンブラー (1946 米)
- 16日 司 祭 尾形 虎三 (1945)
- 17日 司 祭 アーサー・ラザフォード・モリス (1912 米)
- 宣教師 エミリー・ビショップ・ボウルトン (1926 英)
- 18日 宣教師 ジェーン・キャスパリ (1888 英)
- 22日 伝道師 清田 海一郎 (1904)
- 司 祭 近重 利澄 (1934)
- 27日 司 祭 ヘンリー・レナード・ブレビー (1942 英)
- 28日 伝道師 大塚 惟明 (1928)
- 29日 司 祭 マルコ 伊墻 八束 (1978)
- 30日 宣教師 オードリー・M・ヘンティー (1970 英)

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前 10 時 30 分から、主教座聖堂 (川口基督教会) で行われます。
 * 10月9日(水) 午前 10 時 30 分から
 ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加ください。

○大阪聖アンデレ教会
アンデレ 粥川 昌
(9月15日)

○西宮聖ペテロ教会
アグネス 牧口 麗子
(8月26日)

○大阪聖ヨハネ教会
ヨセフ 谷岡虎太郎
(9月15日)

○川口基督教会
アンジェラ サラ
(7月21日)

○大阪城南キリスト教会
テレサ 白石 琴音
(8月11日)

○堺聖テモテ教会
マリヤ 村井 富美
(5月24日・87歳)

○大阪聖ヨハネ教会
サラ 福士 幸子
(8月23日・79歳)

○芦屋聖マルコ教会
エリザベス 岡田真由美
(7月30日・48歳)

○西宮聖ペテロ教会
アグネス 牧口 麗子
(8月26日)

○大阪城南キリスト教会
テレサ 白石 琴音
(8月11日)

○川口基督教会
アンジェラ サラ
(7月21日)

○堺聖テモテ教会
マリヤ 村井 富美
(5月24日・87歳)

○大阪聖ヨハネ教会
サラ 福士 幸子
(8月23日・79歳)

○芦屋聖マルコ教会
エリザベス 岡田真由美
(7月30日・48歳)

○西宮聖ペテロ教会
アグネス 牧口 麗子
(8月26日)

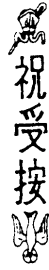
○大阪城南キリスト教会
テレサ 白石 琴音
(8月11日)

○川口基督教会
アンジェラ サラ
(7月21日)

○堺聖テモテ教会
マリヤ 村井 富美
(5月24日・87歳)

○大阪聖ヨハネ教会
サラ 福士 幸子
(8月23日・79歳)

○芦屋聖マルコ教会
エリザベス 岡田真由美
(7月30日・48歳)



魂の平安を
祈ります

お詫びと訂正

8月4日発行の教区報祭432号における間違いを訂正し、お詫びします。

※4頁5段目10行目
 (誤) なぜ教会は開発問題
 (正) なぜ教会は原発問題
 ※11頁5段目
 「連合男子会一日修養会」
 (誤) 日時: 10月12日(日)
 (正) 日時: 10月12日(土)

(誤) 講師: 大畑善道主教
 (正) 講師: 大畑喜道主教

編集後記

実りの秋を迎えました。教区報第433号をお届けできますことを皆様に感謝します。大阪教区成立90周年記念礼拝(聖餐式)まであと29日となりました。1000人の礼拝を目標に90周年実行委員会では諸準備を進めています。教区成立90周年を導いていただいた、神様への感謝と賛美の礼拝を成功させましょう。詳しくは本誌付録の案内を参照ください。(広報委員一同)

“主を仰ぎ見て 光をうけよう”

大阪教区成立90周年記念礼拝(聖餐式)のお知らせ

と き：2013年11月4日(月・振替休日)午前10時30分より

ところ：プール学院中高勝山キャンパス メアリーズホール

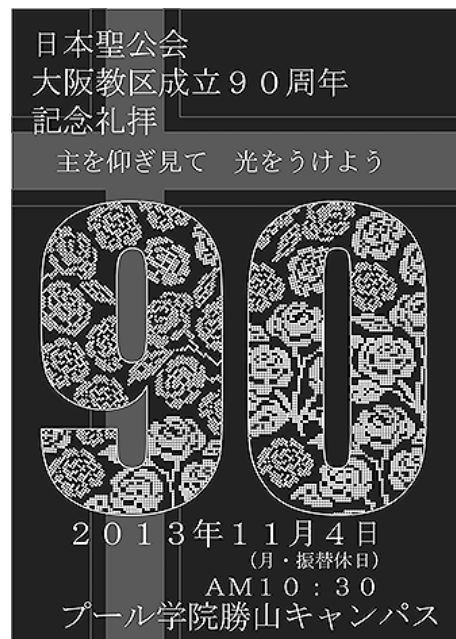
司式・説教 主教 サムエル 大西 修 師父

90周年記念礼拝まであと1カ月となりました。当日は、各教会信徒および関係学校や諸施設の方々、150人で編成される聖歌隊、また京都教区、神戸教区の方々にもお越しいただき、1000人規模の大礼拝となります。

各教会が、それぞれの思いを1枚のパネルにする「わたしたちの教会紹介」、また練習していただいている記念聖歌「神様の風について」を大合唱することで、教区が一つとなって、神様に感謝と賛美を献げる大礼拝といたしましょう。

午後には、出展教会と各団体によるミニバザー、プール学院音楽系クラブによる音楽のつどいの「90周年カフェ」をお楽しみください。

当日が、神様の豊かな祝福のもと、すばらしい恵みの一日となりますよう祈っています。



午後のプログラム ～ 90周年カフェ～

◇教会のパネル展、ミニバザー

全22教会のパネル展と、12教会のバザー出展があります。また東日本大震災被災地からの出展もごさいます。

◇音楽のつどい

プール学院各クラブによる演奏をお楽しみください。

お願い

- ・当日、お履き物はそのままお入りいただけますが、ハイヒールなど床を傷めるおそれのあるものはご遠慮ください。
- ・礼拝終了後、メアリーズホール内で集合写真を撮りますので、そのままお残りください。
- ・聖歌隊練習(最終)は、11月2日(土)午後2時よりメアリーズホール(場所の変更にご注意ください)。午後3時より全体リハーサル。

ウィリアムス神学館 65 周年記念

英国リポン・カレッジ (神学校) 副校長

マーク・チャップマン師
大阪講演会・歓迎会

講演題 (予定) 『聖公会と近代日本との出会い』

日時: 10月10日(木) 講演会 午後3時~
歓迎夕食会 午後5時30分~ (会費3,000円)

会場: いずれも 大阪聖パウロ教会

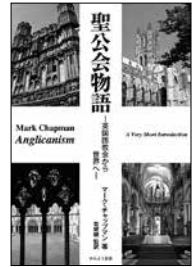
本年10月に京都のウィリアムス神学館65周年の記念行事が行われます。その一環として英国聖公会リポン・カレッジ副校長のマーク・チャップマン司祭が来日されます。その機会に大阪にも来られますので、大阪での講演会と歓迎会を企画しました。リポン・カレッジはオックスフォード運動の中で生まれた英国で最も古い神学校であるカデスドン神学校の流れを汲む伝統ある神学校です。

聖公会の伝統や信仰についての大切なお話をいただけるものと存じますので、皆さまふるってご参加くださいますようにご案内申し上げます。

お問合せ・お申込み

川口基督教会 岩城司祭まで ☎ 06-6581-5061

※チャップマン司祭は聖公会史の専門家で、同師の著書『Anglicanism - A very short introduction』が『聖公会物語 一英国国教会から世界へ』と題して、近日中に「かんよう出版」から発行されます。聖オーガスチンから21世紀まで、英国のみならず世界における聖公会全体の流れを俯瞰した大変よい学びになる本です。



川口基督教会で

クリスマス直前に
文楽公演

12月23日(月・休)

昼の部: 午後1:30~4:00

夜の部: 午後5:00~7:30

全席指定 4,000円 (10月1日発売開始)

申込みは 川口基督教会へ

申込専用 TEL 090-6050-5805

12月23日(月・休) 午後1:30~および午後5:00~、「ゴスペル・イン・文楽」と題して、イエス・キリストの生誕から復活までを描いた文楽を上演いたします。

イエス・キリストの生涯と文楽!ある意味では不思議な組み合わせです。しかし、「神はそのひとり子を賜うほどに、世を愛したまへり」「おおハレルヤ、おおハレルヤ、よろこびありや、よろこびありや、主イエスこのところにいますことを思う。」という力強い義太夫の響きによって、イエス・キリストの福音がわたしたちの五臓六腑にしみこんでゆきます。純日本的な伝統芸能の形式によって、キリスト教信仰の核心が表されているのです。

作者でもあり、義太夫を唄ってくださる豊竹 英 太夫は、熱い信仰をもったキリスト者です。1990年にはじめて「賛美義太夫」を始められ、それは次第に充実し、大きな実りをもたらすようになりました。多くの教会で公演され、熱烈なファンを集めています。クリスチャンだけではなくその業と芸術性の高さが、文楽愛好家や芸術愛好家の高い評価を勝ち得ています。

聖公会のみならずには、各教会でとりまとめていただいても結構ですし、上記の申込み専用電話に直接お申し込みいただいても結構です。

チケットと振込用紙を合わせて郵送いたします。是非、ご参加くださいますようお願いいたします。